

Press

アリアンツ・グローバル・ウェルス・リポート： 金融資産の増加続く

- 世界の金融純資産は 100 兆ユーロを突破
- 日本を除くアジア地域はトップに
- 中国が日本を上回る
- 富の中間層が始めて 10 億人を突破、3 分の 2 はアジア
- 日本の 1 人当たり金融純資産額は世界第 8 位
- 日本のジニ係数は依然として富の分配が平等に近いことを示している

アリアンツ・グローバル・インベスターズの親会社であるアリアンツは、50 カ国以上の家計部門の資産および債務状況を詳細に調査した「グローバル・ウェルス・リポート」第6版を発表しました。このリポートによれば、2014 年の金融資産動向では、3 つの大きな変化が見られたとされています。すなわち、世界の家計部門の金融純資産は 100 兆ユーロを超え、中国の民間金融資産額は日本の民間金融資産額を超え、世界で富の中間層に分類される人は 10 億人を突破しました。詳細は以下の通りです。

世界の家計部門の金融総資産は 2014 年に 7.1%増加しました。2013 年と比較し増加率はやや減少したものの、金融総資産の堅調な増加は継続したといえます。家計部門が一層貯蓄に励み、金融資産が増加しています。アジアや米国の株式市場では、堅調な状態が続きました。このため、世界の金融総資産は、世界のすべての上場株式や国債の価値を上回る 136 兆ユーロという過去最高水準に達しました。「多くの分析者は、これらの数字をいわゆる貯蓄過剰の証拠として捉えています」と、アリアンツのチーフ・エコノミストであるミヒャエル・ヘイズは述べ、「しかし、これは間違った解釈です。低金利を背景にあまりにも多くの世帯が依然として老後のために十分な貯蓄をしていません。政策決定者は貯蓄を規制しようとするのではなく、資本需要を促すための新しい方法やインセンティブを提供すべきです。ほんの数例を挙げれば、気候変動、貧困、移民、デジタル革命、古くなってしまったインフラなど、目の前に横たわる困難な問題は数多くあり、投資機会に過不足はありません。」とコメントしています。

世界の家計部門の債務は、金融資産と比較し緩やかですが金融危機以来の高水準の伸びとなり、2014 年に 4.3%増加し、合計 35 兆ユーロとなりました。金融総資産から債務を引いた金融純資産は 2013 年より 8.1%の増加し、2014 年末で過去最高の 100 兆ユーロ以上に達しました。

2013年と同様に、金融資産の増加は地域により大きく異なるものとなりました。日本を除くアジアの金融純資産は2014年に18.2%増加し、引き続きトップとなりました。この背景には、主に、特に中国での有価証券資産の急激な(かつ時として持続可能なものではない)増加があります。一方、他のエマージング地域である中南米および東欧では、金融資産の伸びは抑えられたものとなり、中南米で4.2%増、東欧で8.6%増となりました。ユーロ圏の増加が北米を上回ったのは、2014年が金融危機後初となりました。増加率は6.2%(北米では5.3%)となり、これは、主に厳しい「債務原則」のおかげです。多くの欧州諸国では、民間部門の債務削減が2014年も続きました。

アジアでの金融資産の増加の継続は、アジア地域の金融資産が世界に占める割合にも変化を及ぼし、世界の資産地図にも影響が見られます。2014年に日本を除くアジア地域の金融純資産および総資産が世界に占める割合は16%となりました。2013年から1.4%上昇しており、この地域の金融資産が世界に占める割合は2000年以降3倍以上になったことを意味しています。昨年は追い上げを図っている国の中で特筆すべきことが起こりました。中国の金融総資産の合計が2014年末で初めて日本を超えました。「近年のアジア、特に中国の金融資産の伸びは極めて堅調です。」とヘイズは述べ、「このような状況を考慮すれば、現在見られるような経済成長の鈍化は、全く心配する必要はありません。中国の追い上げは終了しておらず、現在の中国は5年前、10年前と異なり、より裕福な国となっています。世界経済や金融市場での中国の地位の上昇が与えるのプラスの影響は、依然として極めて大きいものとなっています。」とコメントしています。

アジアの金融資産が世界で占める割合の増加は異なる視点からも見ることができます。昨年、世界で富の中間層と分類された人々の数は初めて10億を超えました¹。2000年以降、約6億人が「富の貧困層」から富の中間層に昇格しました。このグループの人数は2000年に入ってから3倍になっています。しかし、この勢いは主に1つの地域、むしろ1カ国に集中しています。それは中国です。世界の富の中間層の約3分の2は現在アジアからであり、その85%は中国からです。これは、中間層に分類されるアジアの人口が2000年初めから10倍になったことを意味します。「この動向は世界比較での金融資産の増加に内在される特性を強調するものです。ますます多くの人が世界の繁栄の恩恵を受けようとしています」と、ヘイズは述べています。

日本では、昨年度金融総資産が3.2%増加し、アジア諸国のなかでは最も低い伸び率となりました。これは少なくとも日本の家計部門が、依然として金融資産の50%以上を低金利の銀行預金で保有しているためです。しかし同時に、日本の家計部門は借金にも消極的です。債務は2.4%増加したにすぎません。結果として、総債務は昨年末にGDPの81%に増加しました。日本のこの債務比率は、アジアの多くの国が2000年以降急増しているのとは対照的に、ほぼ変化ありません。

アジアの上昇は世界で最も豊かな国上位20カ国(1人当たり金融純資産、下記表を参照下さい)についてのランキングにも反映されています。2014年には、日本、シンガポール、台湾の3カ国がアジアから上位10カ国に入りました。2000年には、日本だけでした。しかし、上位20位から範囲を広げると、アジアはより複雑です。上昇した国もあれば一何よりもまず中国と韓国、4位以上ランクを下げたインドネシア、タイ、マレーシアなどの国もあります。日本は、1人当たり金融純資産が平均73,550ユーロで、世界8位となっていますが、2000年以降順位を3つ落としました。昨年、日本はアジアで最も豊かな国という地位を守りましたが、僅かな差でした。円安がマイナスの影響を及ぼし

¹ 2013年と同様に「アリアンツ・グローバル・ウェルス・レポート」は資産保有者を3つのカテゴリーに分類しました。金融資産保有額が6,100ユーロから36,700ユーロである場合、世界の富の中間層に分類されます。

ました。「このような順位は鵜呑みにすべきではありません。」と、ヘイズは説明し、「しかし、長期的な傾向は顕著であり、メッセージは明らかなです。金融資産についての地域的な傾向は、画一的からはほど遠くなっています。各国間で大きな違いがあり、多くは追いつくためにすべきことが数多くあります。」と述べました。

さらに、富の分配は各国により異なるだけでなく、国内でも異なります。国レベルでの富の分配方法を示すため、今回の報告書で初めて過去(2000年ごろ)と現在の人口10分位数の平均金融純資産をもとに各国のジニ係数を計算しました。分析したすべての国を見ると、富の分配のジニ係数が時間の経過とともに「改善された」(つまり、より公平な分配を示すようになった)国の数は、ジニ係数が悪化した国とほぼ同数となりました。アジアでも、改善、悪化の動きはあまり顕著ではなく、足踏み状態のようですが、同様となりました。アジアの富の分配構造は、世界の平均ジニ係数が63.8であるのに対して、アジア地域の平均ジニ係は62.7であり、他の地域よりもやや平等であるといえるでしょう。日本は54.5であり、アジア平均を下回り富の分配がより平等であることを示しています。しかし、日本では過去10年に富の分配の不平等がやや進みました。世界の先進国でも同様な状態であるといえます。多くの先進国では、富の分配の不平等化が近年(時としてかなり)進んでいます。特に、米国で当てはまります。米国では、分析期間中の不平等化の進展が他の国よりも顕著になり、ジニ係数が分析した国の中で最も高い数値となりました(80.6)。「米国のこの状況は明らかに心配すべきものであるといえます。」と、ヘイズは述べ、「しかし、我々の計算では、他国ほど劇的なものではないとなっています。通常、米国は市場経済のルールよりも例外を示します。これにより議論がしばしば混乱しますが、米国で見られる状況は、他国と同様といえます。」とコメントしました。

2014 年上位 20 カ国

1 人当たり金融純資産			
	ユーロ	前年比 (%)	2000 年の順位
#1 スイス	157,450	5.7	1
#2 米国	138,710	4.2	2
#3 英国	86,230	16.9	4
#4 ベルギー	84,770	3.1	3
#5 スウェーデン	82,930	16.9	12
#6 オランダ	78,060	21.3	8
#7 カナダ	76,510	9.7	7
#8 日本	73,550	3.5	5
#9 シンガポール	73,330	4.9	14
#10 台湾	72,640	7.6	17
#11 デンマーク	72,310	16.3	11
#12 ニュージーランド	65,650	3.6	10
#13 イスラエル	58,910	11.4	13
#14 オーストラリア	53,800	8.2	19
#15 フランス	50,770	3.1	9
#16 イタリア	49,420	3.4	6
#17 オーストリア	48,420	2.9	16
#18 ドイツ	44,770	5.2	18
#19 アイルランド	43,030	20.7	15
#20 フィンランド	25,060	1.4	21

1 人当たり金融総資産			
	ユーロ	前年比 (%)	2000 年の順位
#1 スイス	238,310	4.6	1
#2 米国	175,010	3.7	2
#3 デンマーク	135,830	8.1	7
#4 オランダ	126,700	12.0	6
#5 英国	120,370	12.4	4
#6 スウェーデン	120,240	12.8	13
#7 カナダ	114,680	7.7	8
#8 オーストラリア	113,660	6.9	14
#9 ベルギー	107,020	3.5	5
#10 シンガポール	106,620	4.4	10
#11 日本	94,980	3.3	3
#12 台湾	88,160	6.9	18
#13 ニュージーランド	87,320	3.6	16
#14 ノルウェー	86,110	6.5	20
#15 アイルランド	78,960	6.6	12
#16 フランス	72,370	2.4	11
#17 イスラエル	70,660	10.2	19
#18 オーストリア	68,050	2.2	17
#19 ドイツ	64,510	3.8	15
#20 イタリア	64,420	2.5	9

2015 年 9 月 29 日、ミュンヘン

本件の問い合わせ先:

Dr. ローレンツ・ウェイマン (Allianz SE)

電話 +49.69.24431-3737

詳細はアリアンツのホームページをご覧ください。

<https://www.allianz.com/economic-research/en/> in the Publications/Specials section.

アリアンツについて

お客様や代理店様とともに、アリアンツは強固な金融グループの1つとなっています。アリアンツは、民間部門および法人部門約 8,500 万人のお客様に保険を提供し、経済的機会の提供やリスクを回避し、セーフガードの一助となるアリアンツの知識、世界各地の拠点、強固な資本基盤、堅実性について信頼を得ています。2014 年には、70 ヶ国以上に在籍する従業員約 147,000 人で総収入 1223 億ユーロ、営業利益 104 億ユーロを達成しました。保険給付金額は 1046 億ユーロとなりました。

保険、資産運用、アシスタント・サービスでの堅調な業績は、高齢化社会や気候変動といった困難に対する金融ソリューションをご要望されるお客様によるものです。透明性および誠実性がアリアンツの持続可能なコーポレート・ガバナンスの重要な要素です。

将来の見通し等に関する注意事項

本件には、経営陣の現在の見解や予測による将来見通し、予測についての文言等や、周知または未周知のリスクや不確実性が含まれます。実際の結果、パフォーマンス、出来事は、本件で記載された、または暗示された将来予測から著しく乖離する可能性があります。

このような乖離は、(i)一般的な経済状況および特にアリアンツグループの中核事業および中核市場での競合他社との状況の変化、(ii)金融市場のパフォーマンス(特に市場のボラティリティ、流動性、クレジット・イベント)、(iii)自然災害を含む損失保証される出来事の頻度および深刻度、損失費用の動向、(iv)死亡率および罹患率の水準や傾向、(v)継続率の水準、(vi)特に銀行業でのデフォルトの程度、(vii)金利水準、(viii)ユーロ/米ドル為替レートを含む為替レート、(ix)税制を含む法律や規制の変更、(x)統合問題や、組織再編成に関する買収の影響、(xi)地方、地域、国、世界それぞれのレベルでの一般的な競争要因を理由として起こる可能性があるが、これらに限定されるものではありません。これらの要因の多くは、テロ活動やその結果として起こる可能性が高い可能性があります。

情報更新の義務について

当社は本件に含まれるいかなる情報や将来見通しについて、法律に基づき開示が要求される情報を除き更新義務はないものとします。